

## E-7

### アラビア語チュニス方言の3人称単数独立人称詞の談話モダリティ用法と主題化

熊切 拓

東京大学大学院人文社会系研究科研究員

cyberbbn@gmail.com

#### 要旨

本発表では、アラビア語チュニス方言の、3人称単数独立人称詞の特殊な用法を「談話モダリティ用法」と名づけ、その記述を行った。この用法は、ある命題を「隠されていた真実・裏事情、あるいは通常の想定に反した事柄」として述べる機能を持ち、3人称単数独立人称詞が名詞文の主語と名詞述語との間に現れる「文中型」と、名詞文もしくは動詞文の文頭に現れる「文頭型」に分けることができる。ついで、この用法が談話モダリティにかかわるものと捉え、この用法の意味と発展に主題化がかかわっていると分析し、談話モダリティと主題化の関連について述べた。

#### 1. 導入

本発表が扱うのは、アラビア語チュニス方言（チュニジア）の次のような例である。

- (1) bu-hum hu:wa r'a:zil-ha: 「そして、彼らの父は実は彼女の夫だ」 (I, p.23, 1.14)  
父-彼らの 彼 夫-彼女の
- (2) hu:wa ha:k-l-iṣqal ja:sir ja:sir mu:f mli:h  
彼 その-DEF-理性 たくさん たくさん NEG よい  
「実は、たくさんの理性というのはよくない（＝聞き分けが良すぎるといってはよくないものです）」 (II, p.144, 1.6)

例(1)と(2)で太字で示した hu:wa 《彼》は、3人称単数男性の独立人称詞だが、ここでは訳の太字で示したように「実は（本当は、本当のことをいえば）」と訳することができる。

本発表は、このような3人称単数独立人称詞の用法を、命題の提示の仕方にかかわる談話モダリティと捉え、「談話モダリティ用法」と名づける。そして、この用法を記述し、独立人称詞がどうしてこのようなモーダルな意味を持つにいたったかについて、主題化との関連から考察を行う。

導入である本節に続く第2節では、アラビア語チュニス方言について述べ、第3節では、独立人称詞と名詞文についてまとめる。第4節では、この「談話モダリティ用法」の記述を行う。第5節はこの用法についての分析、第6節はまとめである。

なお、本発表のタイトルに「3人称単数独立人称詞」とあるが、「3人称複数独立人称詞」にもこの用法が見られることがわかったため、本発表では複数形についても言及する。

#### 2. アラビア語チュニス方言

アラビア語チュニス方言（以下、チュニス方言）は、現代アラビア語諸方言のひとつであり、チュニジア共和国の首都チュニスを中心に広く用いられている（Gibson 2009）。

動詞には完了形と未完了形があり、人称・数・性によって活用する。名詞には男性と女性の2つのクラスがあり、単数形と複数形がある。

本稿の資料として、チュニス方言による物語集である『アル＝アルウィー物語集』（Al-ṢArwi., ṢAbd-al-Ṣazi:z (1989) hika:ja:t al-ṢArwi: Vol. I-IV. 2nd edition. Tunis: Al-Da:r Al-Tu:nisi:ja li-l-Naḡr）を利用した（ただし、例文(5)は現地調査によって得たものである）。引用にさいしては、訳文末の（）内に、ローマ数字で巻番号、アラビア数字でページ番号（p.）と行番号（l.）を記した。

### 3. 独立人称詞と名詞文の概要

チュニス方言の独立人称詞の形態は次の通り。a:na: 《私》、inti: 《あなた》、hu:wa 《彼》、hi:ja 《彼女》 ahna: 《私たち》、intu:ma 《あなたたち》、hu:ma 《彼ら・彼女たち》。3 人称単数だけ男性形・女性形がある。

チュニス方言の名詞文とは、述語が名詞類（名詞、形容詞）、指示詞類（独立人称詞を含む）、前置詞句、副詞であるような文である（これらを「名詞述語」と呼ぶことにする）。名詞述語だけでも文として成立しうるが、主語も現れうる。主語のある場合、名詞文は主語と名詞述語を並べるだけであり、コピュラは必要ない。(3) は主語と名詞述語が名詞の場合、(4) は主語と名詞述語がともに独立人称詞の場合である。(5) のように主語と名詞述語の間に時制の助動詞 kan (AUX) の活用形が現れることがあるが、これは名詞文の時制を示すためのもので、コピュラではない。

(3) id-dinja: tʰangra 「世界は鍋だ」 (I, p.37, l.11)

DEF-世界 鍋

(4) a:na: hu:wa 「私が彼だ」 (III, p.67, l.10)

私 彼

(5) a:na: kunt tʰa:lib 「私は学生だった」

私 AUX.PERF.ISG 学生

### 4. 3 人称独立人称詞の談話モダリティ用法の記述

3 人称独立人称詞の談話モダリティ用法は、ある命題を「隠されていた真実・裏事情、あるいは通常の想定に反した事柄」として述べるものである。

この用法は 3 人称独立人称詞の出現環境によって 2 つに分けることができる。ひとつは、名詞文において、主語と名詞述語の間に現れる場合である。これを「文中型」と名付ける。もうひとつは、文の最初に現れる「文頭型」である。この場合、文は動詞文と名詞文のどちらでもよい。以下、文中型、文頭型の順に例を検討する。

#### 4.1. 文中型

文中型では、3 人称独立人称詞は、名詞文の主語と名詞述語の間に現れる。この場合、主語が名詞述語の表す存在以外ではありえないということが述べられ、さらに、これが聞き手の知らない（あるいは十分に認識していない）真実である、という話し手の認識も付け加わる。結果として、この用法によって、名詞文は「[主語] は実は [名詞述語] である」（隠されていた真実・裏事情）、もしくは「通念とは異なり [主語]こそが [名詞述語] である」（通常の想定に反した事柄）という意味となる。

冒頭の (1) はこの文中型である。この文は、女性主人公がたまたま出会ったこどもたちの家に行くとそこに父親がおり、それがなんとほかでもない自分の夫であった（すなわち、自分の夫には別の妻がいた）という文脈で語られている。ここでは、女性主人公（と物語の聞き手）にとって隠されていた真実が明かされた、ということになる。

(6) θamma zu:z ʔuxwa wa:hid qalli:l w-wa:hid yni: w-l-yni: hu:wa alʔa:h  
がいる 2 兄弟 ひとり 貧しい そして-ひとり 富める そして-DEF-富める者 彼 神

「二人の兄弟がいる。ひとりには貧しく、ひとりには金持ち、しかし富める者こそ神」 (I, p.209, l.1)

いっぽう、この (6) では聞き手の知らなかった真実というより、通常の想定に反した考えが述べられている。すなわち、もうひとりの兄弟が金持ち (yni:) であることを述べた後に、yni: と神との関係が述べられており、このことによって、本当に yni: であることとは、誰もが思っているようにお金を持っているという

ことではないこと、神への信仰が重要である、ということが語られている。

(1) と (6) は、3 人称単数男性の独立人称詞の例であったが、次に見るのは女性形の例である。この例では、主語が3 人称単数女性独立人称詞であり、これに一致する同型の3 人称単数女性独立人称詞が後続している。意味としては、窃盗の真犯人が隠されていた真実として聞き手に明らかにされている。

(7) hi:ja hi:ja lli: sarqit-lna: flu:s-na:  
彼女 彼女 REL 盗むPERF.3SG.F-私たちに お金-私たちの  
「彼女こそ私たちからお金を盗んだ者です」 (I, p.179, 1.1)

#### 4.2. 文頭型

文頭型は、談話モダリティ用法の 3 人称独立人称詞が文頭に現れる点で、文中型と異なる。また、動詞文が後続しうる点 ((8)~(13) の諸例)、そして、疑問文もある点でも異なる。以下、肯定文・疑問文のそれぞれを検討する。

肯定文の場合、この用法によって、3 人称独立人称詞に後続する文の表す命題は「隠されていた真実・裏事情、あるいは通常の想定に反する事柄」として語られる。

まず、隠されていた真実・裏事情を述べる例を見る。次の (8) では、ある出来事についての裏事情が語られている。

(8) sa:ʕasa:ʕa l-xa:dim tʒi:-ha: tqʉ:l-ilha: si:d-i:  
ときどき DEF-女召使い 来るIMPF.3SG.F-彼女を 言うIMPF.3SG.F-彼女に 主人-私の  
jʕajitʰ-lik w-hu:wa la: si:d-ha: jʕajitʰ la: ʕajj  
呼ぶIMPF.3SG.M-あなたに そして-彼 NEG 主人-彼女の 呼ぶIMPF.3SG.M NEG 何も  
「ときどき、女性召使いは彼女のところにやってきては、ご主人があなたをお呼びでございます、と彼女に言う。しかし、実は、主人はまったく何も呼んではないのだ」 (I, p.20, 1.11)

これは、女性主人公が、召使いを使って夫が自分を頻繁に呼びにきているように見せかけて、それくらい夫が自分を愛しているのだと、他の登場人物たちを騙す場面である。召使いは女性主人公を呼びにくるのだが、それは女性主人公がそうするように密かに命じているだけで、実際には夫は呼んではない、ということが述べられている。

次は 3 人称独立人称詞の女性形が使われた例である。これは直後の xa:la 《おば》に一致したものと考えることができる。ここでは「おば」は双子の赤ん坊の入った籠を王に命じられて川に捨てたが、それは実際には遠く離れた場所ではなかったという、裏の事情が語られている。

(9) hi:ja xa:lit-hum ki:f rma:t il-quffa fi-l-wa:di: ma:ʕamlit-ʃ msa:fa  
彼女 おば-彼らの 時 投げるPERF.3SG.F DEF-籠 中に-DEF-川 NEG-するPERF.3SG.F-IRR 距離  
kbi:ra w-lqa:-ha: if-ʕa:jib  
大きい そして-見つけるPERF.3SG.M-それを DEF-老人  
「実は彼ら（双子）のおばは、川に籠を投げ捨てた時、あまり離れた所にまで行かなかった。そして（だから）、老人が籠を見つけたのだ」 (III, p.306, 1.4)

(10) は 3 人称独立人称詞の複数形 hu:ma: が使われた例である。この hu:ma: が一致しているのは、動詞 za:w に後続する主語 na:s 「人々」である。

(10) w-jku:n fi:-ʕilm-ik illi: hu:ma za:w na:s ja:sir qibl-ik  
そして-AUX.IMPF.3SG.M 中に-知識-あなたの CONJ 彼ら 来るPERF.3PL 人々 とても 前に-あなたの  
「実はお前の前にたくさんの人々が来ていたということをお前は知っておくべきだ」 (III, p.311, 1.4)

これは試練に挑もうとする若者に対してある登場人物が言った言葉である。この文では若者以前にも多くの挑戦者がやってきては失敗したという隠された真実が述べられている。

通常の想定に反する事柄を述べていると解釈できる例をあげると、まず冒頭に挙げた (2) では、聞き分けが良いのは普通はいいこととされるが、あまりにも良すぎると実はその逆である、と通常の想定に反することが述べられている。

さらに、次の例も、気前のよさの代名詞であるような人物が、実はケチであることがわかる、という通常の想定に反する事柄が語られている。

- (11) **hu:wa**    ha:tim    illi:    jahki:w                    ʕli:-h                    lu:ka:n    za:                    ʕsʕar-na:  
 彼            (人名)    REL    語るIMPF.3PL                    について-彼の                    もし    来るPERF.3SG.M                    時代-我々の  
 ha:ða:    rʔa:-hu:    juðʔhur                    mijʔha:h                    qudda:m-ik  
 この    だろう-彼    見えるIMPF.3SG.M                    けち                    の前-あなたの

「まったく、人びとが語っている (=気前のよさで語り草となっている) ハーティムがもし我々のこの時代やって来たとしたら、(もっと気前のよい) あなたの前ではケチに見えることでしょう」

(I, p.226, 1.1)

次に疑問文の場合について見る。疑問文に用いられた場合、そこで問われる命題は、通常の想定に反するようなものであり、疑問文は「そのような命題はありえるだろうか、いや、ありえない」という反語や、ありえないことに対する驚きを示す修辭的なものとなる。(12) と (13) は反語疑問文であり、3人称独立人称詞に後続する文の表す命題がありえないということが示されている。(14) の疑問文は、「海の世界にスルターンがいる」というありえない命題に対する驚きを表明している。

- (12) **hu:wa**    sardu:k    jaʕmil                    alf    frank?  
 彼            雄鶏    するIMPF.3SG.M    1000    フランク

「いったい雄鶏が 1000 フランクするものだろうか? (=ありえない)」 (II, p.246, 1.9)

- (13) wxajit-i:    **hu:ma**    rʔ-rʔa:l                    jitta:mnu:  
 姉妹-私の    彼ら    DEF-男PL    信じられるIMPF.3PL

「わが姉妹よ (ここでは自分への呼びかけ)、いったい男たちは信じられるものかしら? (=信じられない)」 (II, p.71, 1.4)

- (14) ʔnu:wa?    **hu:wa**    θamma                    sʔultʔa:n                    fi-l-bhar?  
 何    彼                    がある    スルターン                    中に-DEF-海

「なんだと? まことに海にスルターンがおるのか?」 (II, p.300, 1.1)

次の (15) は、物語の語りを進めるための修辭疑問文であり、その点では上の 3 つとは異なっている。しかし、「40 人の盗賊とその首領」が真犯人であるという隠された真実を導入する機能を持っているため、全体として肯定文の場合と同じように捉えることができよう。

- (15) **hi:ja**    is-sri:qa    ʔku:n    bi:-ha:ʔ                    l-arbʕi:n    sa:riq    w-zmi:m-hum  
 彼女    DEF-盗品    誰                    とともに-その    DEF-40    盗賊    そして-首領-彼らの

「いったい盗品は誰がこれを持っているのか? 40 人の盗賊とその首領なのだ (=実は 40 人の盗賊とその首領が盗品を持っているのだ)」 (I, p.415, 1.12)

なお (13) では 3 人称独立人称詞の複数形 hu:ma: は rʔ-rʔa:l 「男たち」に一致し、(15) では hi:ja は女性名詞 is-sri:qa 「盗品」に一致している。

### 4.3. まとめ

本節では、3人称独立人称詞の談話モダリティ用法の記述を行なった。この用法は、名詞文の主語と名詞述語の間に現れる文中型と、名詞文もしくは動詞文の文頭に現れる文頭型に分けることができる。文頭型は、肯定文と疑問文がある。3人称独立人称詞は単数男性形だけでなく、単数女性形、複数形も現れる。意味の点では、この用法は、命題を「隠されていた真実・裏事情、あるいは通常の想定に反した事柄」として述べる機能をもつ。

## 5. 主題化と談話モダリティ用法

### 5.1. 談話モダリティ

談話モダリティとは「テキスト・談話レベルで機能するモダリティ」（宮崎・安達・野田・高梨 2002）であり、具体的には、談話において命題をどのように提示するかという話者の態度を表示するものである（熊切 2022: 247）。

ここで、前節の3人称独立人称詞の談話モダリティ用法を振り返ると、「隠されていた真実・裏事情、あるいは通常の想定に反した事柄」として述べる機能をもっていた。これは、談話においてある命題をそのようなものとして（つまり隠されていた真実や通常の想定に反した事柄として）提示するという点で、ともに談話モダリティにかかわるものだと考えることができる。

### 5.2. チュニス方言の主題化

3人称独立人称詞の談話モダリティ用法の文中型では、独立人称詞は主語と名詞述語の間に現れる。それゆえ、これを、主語と名詞述語をつなぐコピュラと解釈することも可能である。標準アラビア語においても、3人称独立人称詞がコピュラの位置に現れることがあり、それゆえ標準アラビア語ではしばしばコピュラと呼ばれる（たとえば Ryding 2005: 300。ただしチュニス方言のような特殊な意味はない）。

だが、チュニス方言においてはこの解釈は十分なものとは言えない。すなわち、文頭型では、意味的には文中型と近似しているが、位置の点からはこれをコピュラとは見なすことはできないからである。そこで、文中型と文頭型の関連を説明するような解釈が必要となる。これに関して本発表は、文中型に現れる3人称独立人称詞を、主題化という観点から捉える。

チュニス方言において、主題化は、① 主題が評言の前に現れる、② 評言の内部において、その主題が占めるべき統語的機能をその主題に一致する代名詞的要素（人称詞、人称接辞、動詞屈折辞）が再び現れて代行する、という2つの特徴を持つ（熊切 2018: 123）。以下の(16)では、主題は *il-bnajt* 「娘たち」であり、続く評言内において、これが動詞の目的語であることが、動詞に接尾された *-hum*（3人称複数の対格人称接尾辞）との一致によって示されている。

- (16) *il-bnajt*    *ʕfi:t-hum*                    *l-kull*  
DEF-娘たち    与える PERF.1SG-彼女らを    DEF-すべて  
「娘たちはといえば、私はみんな嫁にやった」（熊切 2018: 125, 例文(18)）

チュニス方言の主題化では、名詞文そのものを評言とする主題文もしばしば見られる（熊切 2018: 127 ではこうした主題文を「入れ子型」としている）。以下の(17)の構造を示すと次の(17')のようになる。

- (17) *hu:wa*    *za:da*    *bu:-h*    *sʕultʕa:n*                    「彼もまた、その父がスルターンだ」 (I, p.65, 1.7)  
彼            も            父-彼の    スルターン  
(17') [*hu:wa*] *za:da*    評言 [*bu:-h* *sʕultʕa:n*]  
主題            も            評言 [主語    述語]

すなわち、(17)では bu:-h を主語、sʉlfa:n を述語とするひとつの名詞文が評言となっており、主題 [hu:wa] が何と一致しているかという、表現内の名詞文主語である bu:-h に結合した 3 人称単数男性の属格人称接尾辞である。このような名詞文全体を評言とする主題化から、文中型を捉えることができる。次の (18) は (1) の再掲である。

(18) bu:-hum hu:wa rʉa:zil-ha: 「彼らの父は実は彼女の夫だ」 (I, p.23, l.14)  
 父-彼らの 彼 夫-彼女の

(18) の bu:-hum を主語ではなく主語が主題化されたものとして捉えると、hu:wa は主題に一致する評言内の人称代名詞と分析することができる。その構造は (18') であり、そこから (18) は (19) のような名詞文が主題化されたものと考えられる。

(18') 主題 [bu:-hum] 評言 [主語 [hu:wa] 名詞述語 [rʉa:zil-ha:]]

(19) bu:-hum rʉa:zil-ha: 「彼らの父は彼女の夫だ」  
 父-彼らの 夫-彼女の

さらに、主題化という観点から捉えると、(18) のもつ特殊な表現性の説明も可能となる。すなわち、通常ならば、(19) のように主語と名詞述語を並べれば十分なところを、あえて主語を主題化するということは、「話し手が、その主語について、自分の知らない重要な情報を述べるだろう」という聞き手の解釈を生み出しうる。それが、文中型の「隠されていた真実・裏事情、あるいは通常の想定に反した解釈」を述べるという意味につながっていると考えられる。

### 5.3. チュニス方言の談話モダリティ表現

前節では、文中型がもつ意味を主題化という観点から考察したが、次に問題となるのは、3 人称独立人称詞の位置の問題である。文中型の 3 人称独立人称詞の位置は主題化と関連づけることができるが、文頭型はそうではなく、3 人称独立人称詞が文頭に現れる理由を考察する必要がある。

ここでチュニス方言の談話モダリティ表現の特徴を見る。チュニス方言の談話モダリティにはさまざまな形式があるが、そのうちのひとつに主題化をとるものがある。その場合、モダリティにかかわる要素は文頭に現れる。(20) にあげるのは、談話モダリティ辞 mʉa:- であり、この小辞は人称接尾辞と結合し、これに後続する文の表す命題を聞き手との間ですでに共有されている旧情報として提示する機能をもつ (詳しくは熊切 2022: 240)。この談話モダリティ辞に結合した人称接尾辞は、主語だけでなく後続する文の目的語や前置詞句と一致しうる ( (20) は目的語と一致した例)。したがって、mʉa:- と人称接尾辞の結合体と、これに後続する文は、主題に一致する人称辞を前に置き、評言内にその主題に一致する要素を含むという点で、主題文と似た構造を持つことになる。これを (21) に示す。

(20) mʉa:-hi: fassirt-ha:-lik nha:r-lahad illi:fa:t  
 旧情報提示-それF 説明する PERF.1SG-それをF-あなたに 日曜日 先週の  
 「先週の日曜日にそれは説明してあげたでしょう」 (熊切 2017: 72, 例文 (16))

(21) [談話モダリティ辞+人称接尾辞] [文 (主題に一致した人称辞を含む)]  
 主題 評言

ここで文頭型に戻り、文頭に現れた 3 人称独立人称詞をそれ自体がモダリティ辞である人称詞として捉えると、文頭型は、(21) の談話モダリティ辞の構造と似た構造 (22) を持つものとなる (ここでは (10) の補文節のみを取り上げている)。

(22) <b>hu:ma</b>	<b>za:w na:s ja:sir qibl-ik</b>
[談話モダリティの3人称独立人称詞]	[文 (主題に一致する要素を含む) ]
主題	評言

すなわち、この言語の談話モダリティ表現には [主題-評言] という主題化構造を持つものがあり、同じく談話モダリティ表現である文頭型も同様な構造をとっていると考えることができよう。

#### 5.4. 文中型から文頭型への拡張

本節での議論を踏まえて、本発表は、この用法は、文中型から文頭型へ拡張したと推定し、その過程を次のように考える。すなわち、3人称独立人称詞は、まず、名詞文において、主題化された要素に一致する人称詞として現れる。そこで「聞き手の知らない重要な情報を述べる」という解釈が生まれる。さらに、この談話モダリティ的な意味により、この言語の別の談話モダリティ表現がとる [主題-評言] という主題化構造に合わせて、主題の位置に3人称独立人称詞が現れるようになったのが、文頭型である。

#### 6. 本発表のまとめ

本発表では、アラビア語チュニス方言の、3人称独立人称詞の談話モダリティ用法の記述を行い、これが、ある命題を「隠されていた真実・裏事情、あるいは通常の想定に反した事柄」として述べる機能をもつと分析した。さらに、名詞文の主語と名詞述語の間に現れる文中型と、名詞文もしくは動詞文の文頭に現れる文頭型に分けられることも指摘した。

さらにこの用法が談話モダリティにかかわること、そして文中型におけるこの用法の意味が主題化に関連づけられること、いっぽう文頭型はこの言語の他の談話モダリティ表現の主題化構造と似ていることを指摘し、この用法のが文中型から文頭型へと拡張したと推定した。

上記からわかるのは、3人称独立人称詞の談話モダリティ用法の意味と発展に、主題化が深くかかわっていることである。主題化とは、文で述べられる命題そのものに変更を加えるものではないが、文中のどの要素を主題とするかということを通じて、情報の伝達のありかたに影響を及ぼす。いっぽう、談話モダリティとは、命題の内容ではなく、その提示の仕方にかかわるモダリティである。それゆえ、本発表で確認したように [主題-評言] という主題化構造が談話モダリティを表示する機能をもつようになるのは理に適ったことといえよう。

#### 略号

1/2/3 : 1 人称、2 人称、3 人称、AUX : 時制の助動詞、CONJ : 接続詞、DEF : 定冠詞、F : 女性、IMPF : 未完了形、IRR : 非現実モダリティ辞、M : 男性、NEG : 否定、PERF : 完了形、PL : 複数、REL : 関係詞、SG : 単数、- : 形態素境界。

#### 参考文献

- Gibson, Maik 2009 Tunis Arabic. In: Versteegh, Kees, and Mushira Eid, Alaa Elgibali, Manfred Woidich, and Andrzej Zaborski (eds.) 2009, 563-571.
- 熊切拓 2017 「アラビア語チュニス方言のモダリティ表現と主題人称」 『日本言語学会第155回大会予稿集』 69-74.
- . 2018 「アラビア語チュニス方言における主題化」 『東京大学言語学論集』 40: 119-133.
- . 2022 『アラビア語チュニス方言の文法研究：否定と非現実モダリティ』（ひつじ研究叢書(言語編)第187巻)』 東京: ひつじ書房.
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 2002 『モダリティ』（新日本語文法選書4）東京: くろしお出版.
- Ryding, Karin C. 2005 *A Reference Grammar of Modern Standard Arabic*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Versteegh, Kees, and Mushira Eid, Alaa Elgibali, Manfred Woidich, and Andrzej Zaborski (eds.) 2009 *Encyclopedia of Arabic Language and Linguistics* Vol. IV. Leiden/Boston: Brill.